

(2) 動物プランクトン

琵琶湖には約150種の動物プランクトンが生息している。そのうち固有種といわれているものは、ビワツボカムリ、ビワミジンコの2種である。

優占種であるプランクトンは、1年中出現する種としてヤマトヒゲナガミジンコ、アサガオケンミジンコ、夏期に出現する種としてハリナガミジンコ、ゾウミジンコ、オナガミジンコ、春期から秋期に出現する種としてハネウデワムシ、コシブトカメノコワムシ、ドロワムシなどがある。



【ハネウデワムシ】



【ヤマトヒゲナガケンミジンコ】

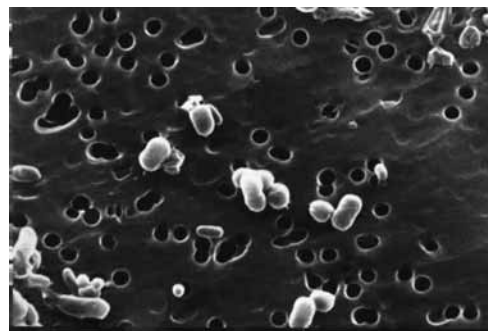
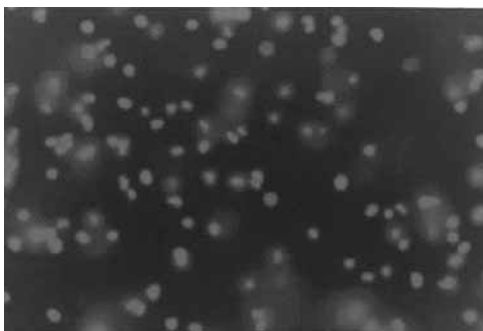
提供 滋賀県立衛生環境センター
(現 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

(3) ピコ植物プランクトン

ピコ植物プランクトンとは、大きさが0.2~2 μmで光合成色素を持つプランクトンである。最近では、このピコ植物プランクトンの増加が原因で透明度が大きく低下する現象は観測されていないが、湖水中の他の生物の増え方に影響をおよぼす重要な種類であるため今後も注目していく必要がある。

滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの資料によると、琵琶湖のピコ植物プランクトンは、冬期に少なく、春から増殖を始め7月から8月にピークを持つ。その数は年間を通じて湖水1ml中5千個以下に減少することはなく、多い年で100万個程度に達する。

琵琶湖で初めてピコ植物プランクトンが確認された平成元年7月の湖水では、1ml中100万個以上のピコ植物プランクトンが検出されている。このときの透明度は、平年5m前後のところ、2.5m~3mであった。



【ピコ植物プランクトン】

提供 滋賀県立衛生環境センター
(現 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)